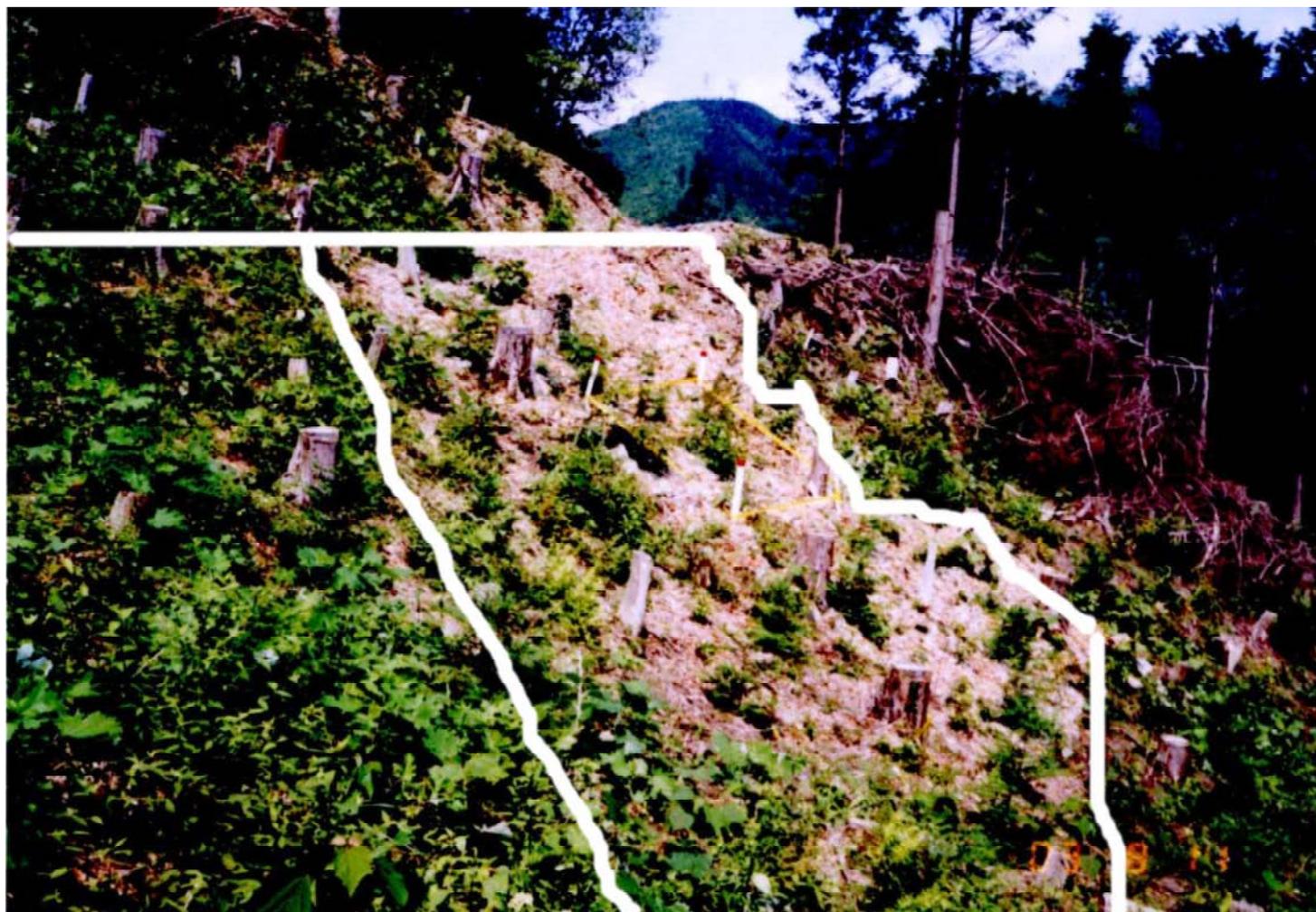


技術開発完了報告

課 題	盤台周辺の枝条処理方法の確立				開発期間	平成14年度～平成16年度		
開発箇所	嶺北森林管理署 長沢山236い林小班	担当部署	森林技術センター	共同研究 機 関	技術開発 目 標	3	特定区域 内 外	○
開発目的 (数値目標)	全幹集材において盤台周辺に堆積・放置された末木枝条は、環境保全上問題があるので、チップパーによってチップ化し、造林地の雑草木の成長抑制材として有効な利用方法を確立する。							
実施経過	<p>平成14年度 (1) チップ製造 (チップシュレッダにより2日間、15m³) (2) チップマット (23cm×28cm×8cm) 製造 (1,000個) (3) チップマット敷設及びチップ散布「スギ・ヒノキの精英樹苗木と一般苗木との成長比較試験地」0.24ha内に、チップマットを32.2m²敷設、及びチップ190.4m²散布</p> <p>平成15年度 草量調査 調査プロット (2m×2m) No.1 (チップマット敷設区) 1.10kg No.2 (チップ散布区) 2.05kg No.3 (無処理区) 1.75kg</p> <p>平成16年度 草量調査 調査プロット (2m×2m) No.1 (チップマット敷設区) 木本類0.25kg 草本類1.80kg 合計2.05kg No.2 (チップ散布区) 0.15kg 1.80kg 1.95kg No.3 (無処理区) 0.20kg 1.70kg 1.90kg</p>							
開発成果	<p>チップの有効利用として、「スギ・ヒノキの精英樹苗木と一般苗木との成長比較試験地」0.24ha内に、チップマット敷設区、チップ散布区、無処理区の草量調査プロットを設定し、雑草の抑制効果の検証を行った。平成15年度、チップマット敷設区の草量が1.10kgで雑草抑制の効果が現れているが、チップ散布区は無処理区より草量が多くなっている。</p> <p>平成16年度は、木本類と草本類別に調査を行った。木本類、草本類とも、3プロットの雑草発生量に大差はない。</p> <p>調査結果によると、チップマット敷設区が初年度で抑制効果が認められるものの、2年目にはチップマットの破損、チップの間隙より成長した草本や、飛散した草本の種子が全体的に発芽して、無処理区に比べてチップマット敷設区やチップ散布区の有意性を検証できなかった。</p> <p>全体では、写真のとおりチップマット敷設区の雑草発生状況は無処理区に比べて少なく、チップマット敷設区は、雑草の抑制効果が明らかである。加えて、①チップマットを厚くする ②チップを散布するだけでなく固めていけば、チップによる雑草抑制効果を検証できたと考えられる。</p>							

盤台周辺の枝条処理方法の確立

(草・木本植物発生状況比較)



チップマット散布区

チップマット敷設区